

《農地復旧の区分》

平成24年3月21日時点

| 被害区分 | 方法 | 概算面積 (ha) |
|----------------|---------|-----------|
| 〈小〉 浸水少ない内陸側 | 除塩のみ | 456 |
| 〈中〉 農地崩れ、ヘドロ | 除塩+原形復旧 | 1,498 |
| 〈大〉 農地流出などの沿岸部 | 関連区画整理 | 1,322 |

※面積は、土地利用計画により大幅に変動する。

《農漁村地域の土地利用計画のイメージ》



《除塩後に営農再開した農地(いわき市)》



除塩作業後に 営農を再開

福島県は、津波による被害を受けた約3千ヘクタールの農地復旧に関して、その被害の程度に応じて左表に示す3つの区域に区分して復旧する方針です。また、復旧にあたっては、各市町が策定する復興計画の新たな土地利用計画と整合を図りながら進め、将来の営農計画を見据えた事業計画を策定します。

被害の程度が小さい農地で行う「除塩」とは、津波により海水が浸入し、土壌中に残留した塩分により作物の生育障害が懸念される農地において、この塩分を十分な量の真水などで洗い流す作業のことです。いわき市の一部の農地では、震災直後の平成23年5月に除塩を行い、水稲の作付けを行いました。

津波被災農地の営農再開に向けて

福島県は、復興の羅針盤となる『福島県復興計画(第1次)』を平成23年12月28日に策定しました。平成24年は、福島県の『復興元年』であり、この復興計画に基づき、一刻も早く農業に携わる人々が再び笑顔を取り戻すために、農業生産の基盤である農地や農業用施設の復旧に取り組みます。本号では、『農空間』の復旧・復興に向けた取り組みの一部を紹介いたします。

震災からの復興に向けた取り組み



第51号

発行所 福島県農林水産部 農村計画課

ため池の耐震性簡易検証手法を報告

福島県農業用ダム・ため池耐震性検証委員会

福島県農業用ダム・ため池耐震性検証委員会の第6回委員会が、平成24年3月6日に開催されました。3名の学識経験者を委員とする同委員会は、平成23年8月の現地調査に始まり、平成24年1月25日に開催した第5回委員会での審議の結果、「藤沼湖の決壊原因調査」について、報告書が県に提出されました。

今回は、「山ノ入ダム及び松ヶ房ダムの健全性評価」、「農業用ダム・ため池の耐震性簡易検証手法の確立」について審議を行った結果、最終結論に至り、田中忠次委員長(社団法人 地域環境資源センター理事長)から、今後、農業者や関係市町、土地改良区等との連携を図りながら、一日も早い営農再開を目指すこと、農地の復旧への取り組みを進めます。



報告書を提出する田中委員長

農業用ダム・ため池の災害に備えて

ため池等農地災害危機管理対策事業

ダムやため池などの農業用施設が地震や豪雨により被害を受けた場合、その下流域の農用地、農業用施設はもとより、生命、財産、公共施設などにも甚大な被害を与える恐れがあります。農業用ダムやため池の危険性について調査を行い、その結果に応じて、補修や改修工事などのハード事業による対応が必要です。しかし、福島県内には約3,700カ所の農業用ダム・ため池があり、工事には膨大な費用と時間がかかるため、ハード事業のみの対応には限界があり、ソフト事業を組み合わせて対応する必要があります。

今回は、市町村が自然災害発生時の被害範囲や避難経路などを地図に示した「ハザードマップ」を作成することが有効とされており、福島県では平成24年度より「ため池等農地災害危機管理対策事業」に取り組み、ハザードマップ作成に必要となる浸水想定区域図を作成し、ダムやため池等が万一決壊した場合の被害の回避と軽減を図り、福島県農地管理課までお問い合わせください。



H24年度に事業実施予定の松ヶ房ダム

ダム・ため池の耐震性検証を望む

農林水産部次長(農村整備担当) 梅村 正敏



松ヶ房ダムの健全性評価③藤沼湖決壊原因調査の3つの事項について検討を行いました。ため池に関する検討結果として、震度5以上の地震動を受けると堤体に深刻な被害を及ぼす危険性があること。竣工年の古いため池は耐震性が低い可能性があること。堤体に砂質土で緩い土層が分布する場合、地震の繰返し作用により強度低下すること。等が判明しました。

これらの一連の調査検討から、簡易な地質調査手法、簡易な耐震診断手法による「ため池の耐震性簡易検証の手順」が提案されました。(詳細は、福島県農村計画課のホームページに掲載しておりますので、ご覧下さい。)

東日本大震災では、本県の3730カ所のダム、ため池のうち745カ所が被災を受け、決壊により人命に被害が生じたこと、農業農村整備事業に携わる一人として大変残念で、悔しい思いであります。被害が大きいため池耐震性検証委員会を立ち上げ、①ため池の耐震性簡易検証手法の確立②山ノ入、

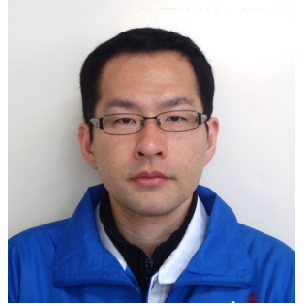
今回、被災しなかったため池が全て耐震性があるとは断言できません。特に、「堤高10メートル以上」、「貯水量10万トン以上」、「決壊した場合、人命、人家、公共施設に被害が想定される」等の大規模ため池については、是非、今回提案のあった手法による耐震性の検証を行うて頂きたいと思っております。ダムについては技術支援等の必要な対応を積極的に行っていく考えです。

四月は、農業水利施設の「施設管理強化月間」となっており、「みんなの水路」、「みんなの点検」を合い言葉に、ダム、ため池についてしっかりと点検と管理にあたって頂きたいと思っております。ダム、ため池管理の要諦は、管理者が施設の安全に責任を持つことだと考えています。

復旧・復興に向けた全国からの支援

福島県では、農地・農業用施設の復旧業務にあたって、農林水産省や26道府県などから延べ3000人にも及ぶ農業土木技術職員の支援をいただいております。これまでご支援いただき、心より感謝申し上げます。

派遣技術者に聞きました



愛媛県 中野克彦さん 期間：1か月(H24.2) 派遣先：相双農林事務所

被災の状況を見ての感想・印象は？

Q1 被災の状況を見ての感想・印象は？

Q2 どのような仕事をしていましたか？その感想は？

福島県へのメッセージ 福島県へのメッセーを 何よりも早く福島県が完全に復興し、心の面でも福島県民が幸福と感ぜられるように『福幸』することも切に望みます。そのためには、なんでも協力します。



支援の皆さんと業務を行う 相双農林事務所の執務室

県内からの便り

○ドキドキの隧道探検隊

平成24年2月18日に伊達西根堰土地改良区が主催の「西根堰の隧道探検」が実施されました。この日は、農業用水水源地域保全対策事業の普及促進活動の一環として実施されており、今年度2回目の開催です。今回は、農業用水を使用しないこの時期の見学を行いました。

○第3回榎木賞優秀賞を受賞

農村振興に関する優れた論文を執筆した技術者を表彰する全国農村振興技術連盟主催の第3回「榎木賞」が発表され、福島県土地・水調整課の佐藤健一主査が、優秀賞を受賞しました。



装備バッチリ 隧道探検隊



授賞式の佐藤主査

地域に根ざした水士里ネット 二十一世紀土地改良区創造運動の推進

水士里ネットは、雄国山麓は、国土連合農地開発事業で造成された大深沢調整池、用水機場、幹線用水路(パイプライン)3路線、全長10km等を管理する受益面積915ha、組合員834名の土地改良区です。名前の由来は、おろし山(天然記念物)指定の「雄国沼」の西麓に扇状地が広がる、畑481ha、田481ha、山間部を流れる雄国沼(畑及び山間部)を供給しています。



人々は平左衛門を崇敬し、新田開祖の恩人としてその霊を貴船神社(熊倉町七本木)に合祀すると共に、平成14年には頭影演劇「天から水を引いた男の物語」を上演した。このスローガンを発表したとき「何を始めるの?」を聞いたときに「何を始めるの?」

現在の雄国沼施設は、明治年間、雄国沼の堤防を築き、昭和8年の水洞門の開削に続き、昭和39年の事業により、堰堤補強高上波除工、余水吐工、取水工が施工された。その後の33年を経過した取水設備等の老朽化は近年著しく、国立公園、鳥獣保護区、第一種自然保護地区等の二重、三重の法の網の中で、環境配慮された地域と共生する国民財産として、省庁の枠を超えた新たな改修事業が不可欠なものである。思いを巡らして、新田開発から360年の時が悠々と流れるなか、先人の礎を守りながら、更なる開拓精神と平野の英知を集めて、地域発展のため、尚一層努力を重ねなければならぬと思っております。

編集後記

かわら版「農空間」の新たな出発となる第51号は、平成23年の災害記録を特集した前号から約1か月と短期間で発行させていただきました。前号を編集しながらも、東日本大震災からの復旧・復興に向けた取り組みも少し早く発信したいと思い、期間を短く発行させていただきます。

また、本号から掲載した「派遣技術者に聞きました」については、これまで支援いただいた方々全員を対象にアンケート調査を行い、回答いただいたコメントの一部を紹介しております。全国の皆様から寄せられたコメントは、温かい励ましや応援など、心が熱くなるものばかりで、本当に福島県は全国から支えられていると感じております。今後も可能な限り回答いただけたコメントを紹介していきます。

さて、福島県では東日本大震災から1年を経過し、新たなスローガン「ふくしまからはじめよう」を発表しました。このスローガンを聞いたときに「何を始めるの?」を聞いたときに「何を始めるの?」



ふくしまからはじめよう。 Future From Fukushima.

関係者の皆様、話題の提供など、今後もご協力をお願いいたします。

(編集担当者 Y・M)

「農空間」とは... 農村において繰り広げられる農業の営み、それを支える農地や水、人々の生活、そして、美しい自然に囲まれ長い間に培われた伝統・文化などが溶けあった空間のことです。

【農地管理課からのお知らせ】4月は「農業水利施設の施設管理強化月間」です。農業水利施設を管理する皆様は、通水前に点検を行いましょ。